

はじめに 新型コロナウイルスによる感染症は私達の生活に大きな制約と変化をもたらしましたが、内閣府発表にもありますように、「段階的に社会経済の活動レベルを引き上げていきます。新しい生活様式・スマートライフを定着させ、感染拡大防止と経済再生の両立を図っていきます。」という段階に移ってきています。当連盟といたしましても、感染対策ガイドラインを制定するなど対策を講じながら、競技大会の再開にむけて準備を進めつつ、刻々と変化する状況を捕捉すべく、加盟校チームの授業状況や学校当局からのスポーツ・クラブ活動に関する制約について定期的にアンケート調査を行ってきています。

33チームから回答のあった8月17日時点のアンケート調査の結果からは、63.6%のチームの学校がほぼ全ての授業がオンライン授業となっている一方、9月後半からは大会参加・遠征が可能と見込まれるチームが63.9%になっています。また10月に何らかの形で大会が開催される場合（大学対抗選手権形式ではなくなったとしても）大会参加を希望するかどうかの問いに対しては、大多数のチームが大会の開催・参加を希望されています。しかしながら、選手個人としては参加を希望しているものの学校の方針により参加が叶わないものが一定数以上居ること、現状に不安を抱く選手関係者も一定割合存在することも確かであり、本年の大学対抗大会は、自発的意思に基づいて参加を希望する選手・チームのみにより、選手権大会では無い形式で、親善・交流により重点をおいた形式で開催することが妥当であろう、との結論に至りました。

大会名称・位置づけの変更

文部科学大臣杯 第76回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会（10/10-11,17開催予定）を
2020全日本大学自転車競技大会 に名称変更し、下記の通りとします。

- ・大学対抗選手権の開催回数にはカウントしない
 - ・文部科学大臣杯、優勝旗の返還・授与は行わない
 - ・種目別優勝者へのチャンピオンジャージの授与は行わない（表彰状・メダルは授与する）
 - ・チーム成績の集計、表彰状授与は行わない
 - ・ロードレース男女優勝者所属チームへの高木秀彰賞の授与は行う
- ※実施競技種目・時程表は既発表済要項の通りの予定です。

その他の大会の状況

10月後半以降の大会開催に関しては、決定次第順次発表予定ですが、検討状況は以下の通りです

- ・RCS白馬ラウンド：実施時期が地元農業収穫期と重なる見込みのため中止の可能性が高い
- ・RCS行田ラウンド：地元諸機関と協議中、開催可能性は高くない
- ・RCS霊峰木曾おんたけラウンド：：10/31-11/1開催を軸に地元諸機関と協議中
- ・RCS菜の花飯山ラウンド：調整中
- ・トラック新人戦：10/25実施予定、実施種目は検討中
- ・利根川個人TT：上記大会のうちいずれかの中止等による空き日程により11月開催を軸に調整継続

リマインダー

加盟校選手諸君におかれましては、大会参加にむけて感染拡大防止に最大限の注意をしながらトレーニング方法を工夫し、競技力の維持向上に努めておられると推察いたします。他方、感染状況や医療体制・医学的知見の蓄積のバランスは刻々と変化している面があり、油断を怠らずに注視し、対策を実践していくことが求められております。自転車競技は屋外スポーツを中心としており、これまでの感染事例が屋内での事象を中心としていることを勘案すると比較的感染リスクは高くないと認識されている面がありますが、トレーニング中・大会中を問わず下記のようなことに留意する必要があります。

- ・大会中、トレーニング中、待機、休憩時間にも密をさけ、大声での談笑をさける
- ・大会開催地、トレーニング地での他グループとの交流は必要最小限にとどめる
- ・共用施設、トレーニング器具を使用した後は自ら率先して消毒等を行う

訪問した大会開催地、トレーニング地では、地元の方々に不安を与えることのないよう、最大限の配慮をしてください。

以上